



TOKYO PACK 2026 専士会セミナー・展示の紹介

<http://www.housou-senshikai.jp/>

本年はTOKYO PACK 2026が開催されます。日本包装専士会は今回も包装四団体による包装テクニカルセミナー、国立環境研究所・大学等とのコラボセミナーを実施します。包装の歴史、包装の未来予測のパネル展示も予定しています。皆様のお越しをお待ちしています。

日本包装専士会のテクニカルセミナーの紹介（場所：東1ホールD会場）

■ 花市 岳 講師 フタムラ化学（株） 10月14日（水） 10：15～11：00

【プラスチック再生材利用を簡単に確実にできる「マスバランスアプローチ」について】
今年4月に改正された資源法では再生材利用率のカウントにマスバランス方式が認められることとなった。再生材として認められるものに何があるのかを整理して、マスバランス方式のメリットデメリットを説明します。

■ 高橋 裕美 講師 日本化工機材（株） 10月14日（水） 15：40～16：25

【防湿包装を科学的根拠に基づいて設計するための基礎を解説】
飽和水蒸気量と結露のメカニズムを踏まえ、なぜ湿度管理が必要なのかを整理した上で、乾燥剤の分類と吸湿特性、規格に準拠した使用量計算と安全率の考え方を説明します。現場で活かせる実践的な設計ポイントを解説します。

■ 野田貴治 講師 日本製紙（株） 10月15日（木） 11：20～12：05

【パッケージにおいて紙素材が貢献できること（とは？）】
国内外では容器包装やその廃棄物に関する新たな規制が発効され、それに対応する新たな技術開発や仕組みづくりも進んできています。包装を取り巻く状況や期待される役割が急速に変化する中で、紙素材が貢献できることを考察し、直近の取り組みを紹介します。

■ 石塚義夫 講師 石塚包装設計・開発事務所 10月16日（金） 13：30～14：15

【流通レベル（落下試験高さ）の推定方法について】
製品貨物の保護適性を評価するためには、流通のレベル（落下試験高さ）を適切に把握する必要があります。それを把握する方法はいくつかありますが、それぞれの方法の短所、長所について概説します。（対象流通ルートの製品貨物の輸送試験、荷役回数の確認等。）

日本包装専士会のコラボセミナーの紹介

日時：10月16日（金） 10：30～12：00 場所：東8ホールA会場

■ 「学生と専門家が描くパッケージの未来」～現場体験（コトマエ）から考える包装の役割～
プラスチック選別現場での視察を起点にパッケージの価値と資源循環のあり方を紐解きます。循環型社会を叶える具体策を、学生と専門家による世代を超えた対話で探ります。

日本包装専士会の展示パネルの紹介（場所：包装四団体・主催者関連ブース）

■ 包装の歴史年表

包装の歴史は古代に始まり、令和に至るまで発展を遂げながら続いている。包装がどのような変遷をたどってきたか、世の中の歴史を並べてわかりやすくまとめました。

■ 包装の未来 2025～2050

包装は、どこへ向かうのか。2050年までの未来年表と二つのシナリオを通じ、包装が社会を支えるインフラへ進化する道筋を提示します。未来を予測するだけでなく、次に選ぶべき一歩に、考えを巡らせるきっかけとなる展示です。